

御礼

コロナ禍の中、8月6日に倉敷市にて第6回 ISCT 研究会・第10回中四国 MIST 研究会をハイブリッド形式にて開催いたしました。中四国 MIST 研究会は約3年ぶりの開催でした。

コロナ新規感染者が連日最多更新する中、WEB参加者を含み、午前の ISCT 研究会では87名、午後の中四国 MIST 研究会では152名にご参加いただき、お陰様を持ちまして盛會裡に終了することができました。特にコロナ関連の事象は現時点では認められておりませんのでホッとしております。

第6回 ISCT 研究会におきましては、指定発表では多くの硬膜外癒着剥離術を行っている先生からこれまでの研究成果のご発表をいただきました。指定講演では佐藤公治先生に「基礎研究から見える ISCT の未来」としまして ISCT の次なるステージに進むための方向性についてお話いただきました。そして、NTT 東日本関東病院の安部洋一郎先生にはペインクリニシヤンの立場からみた硬膜外癒着剥離術の有用性についてご講演をいただきました。さらに、今回の目玉企画であります仙台ペインクリニックの伊達久先生と佐藤公治先生の対談におきましては、まずは伊達久先生よりペインクリニシヤンの先生方が硬膜外癒着剥離術をどのようにして高度先進医療から保険収差にまで持っていかれたのか、そのご苦労と方法、一方でなぜエピドラスコピーは保険収差されなかったのかについて、原因と今後の課題についてご説明いただきました。そしてお二人の先生の対談によって、新たな脊柱管内治療を開発したのち、それを保険収差するためにはどのようにすればよいのかについての道しるべが示されました。ペインクリニシヤンと脊椎外科医の架け橋となった対談であり、本企画がゲームチェンジャーになったのではないのでしょうか。





午後の**第10回中四国MIS研究会**におきましては、一般演題ではまず先陣を切って若手の先生が発表してくれました。どの演題も非常に興味深い内容でした。特筆すべきは、春陽会病院（川崎医科大学）の渡辺先生の「国内留学を経験して」という演題でした。川崎医科大学（倉敷市）と春陽会病院（肝付町）の患者背景や手術内容を比較し、留学先でどのような疾患や手術を学んでいるか、留学の利点欠点を示してくれました。他大学の若手の先生の好奇心をくすぐるような斬新な発表でした。



特別企画の秘密のケンミン治療法につきましては、各県代表の先生に、約3年にわたるコロナ禍に、密かに温めてきた治療法や研究成果などを発表いただきました。各県の特徴が出ており、これまでにない盛り上がりだったと感じました。



そして特別講演では、丸太町病院の原田智久先生と茅ヶ崎中央病院の武政龍一先生にご講演を賜りました。丸太町病院の原田智久先生といえば「脊柱変形」が代名詞となっておりますが、本講演では変形矯正を封印させていただき、「骨粗鬆症性椎体骨折」に対する原田先生なりの治療アルゴリズムを中心にお話いただきました。茅ヶ崎中央病院の武政龍一先生は、高知大学でライフワークとして研究されていました椎体形成術から新たな武器であります「VBS」について、手術適応から治療成績についてのご講演をいただきました。



またこちらも約3年ぶりに開催しましたコメディカルセッションですが、22名の看護師に参加いただきました。始めに春陽会中央病院の寺山星先生と原田亜理沙看護師さんにミニレクチャーをいただきました。多くの看護師さんが器械出しにおけるプロ意識そしてチームビルディングについて学べたのではないのでしょうか。その後、3ブースに分かれてハンズオンを行いました。今回のハンズオンは看護師をテーブル講師に配置しまして、メインで指導するようにセッティングしました。参加者は、皆、非常に熱心に学ばれておりました。研修後のアンケートによる満足度は97%でした。





2つの研究会を開催するにあたりまして、本研究会の趣旨をご理解いただき協賛・ご協力いただきました各メーカーさま、ご講演・ご発表いただいた先生方、座長の労をお取りいただいた先生方、コロナ禍にも関わらず果敢に参加いただいた先生方、そのほか多くの方々のご協力なくては開催出来ませんでした。この場をお借りしまして深謝申し上げます。



次回の ISCT 研究会は未定ですが、第 11 回中四国 MIST 研究会は来年に島根県で、浜田医療センター 柿丸裕之先生が会長で開催いたします。

謹白

2022 年 8 月吉日

第 6 回 ISCT 研究会・第 10 回中四国 MIST 研究会
代表幹事 中西 一夫
(川崎医科大学 脊椎・災害整形外科学)